広島港レポート（その 16）

2021 年 6 月 15 日

ひろしま港湾管理センター　コンテナカンパニー

皆さんは**“ウッドショック”**というのをご存知でしょうか？あまり話題にのぼらないのですが、ここにも新型コロナの影響、海上コンテナ不足という問題が影響しているのです。今回はここから始めてみたいと思います。

そもそも“ウッドショック”で何が起きているのか？木材が不足、価格が高騰し、住宅建設価格が上がり、着工に遅れがでているのです。原因は新型コロナによるテレワークの増加から、大都会で住み、仕事場に通う必要がないのなら、自然に触れ合える郊外に家を建てて仕事外のプライベート時間を充実させようというのです。米国は国土が広く、特に金利が低いので郊外に家をという方が多いのです。日本の住宅は 60%が木造建築、その木材の 70%が輸入に頼っているのです。(「米松（べいまつ。アメリカ産の松のこと)」っていうのは耳にしたことがあるのではと思います。）そして、産業用丸太の輸入額世界一の中国ではコロナ前も後も変わらず大量に使われています。(ここでも中国です)

日本は山国なのでいっぱい木材になる木があるじゃないか、国産木材を使えばと思うのですが、そもそも林業に就く人が少ないのです。木を植えて売れる木材になるまでに時間がかかること (20 年、30 年レベルです) から現金を手にするまでの育てるという時間と投資、後継者が少ないのもうなずけるところです。また就業者が少ないが為、森林は荒れ放題でしょうし・・・。

この木材需要に加え、輸入するための空コンテナの不足、新型コロナからの回復が想像以上に早かった世界の工場中国、元気いっぱいの ASEAN 諸国の好景気に引っ張られコンテナ船スペースの不足から海上運賃も大幅に値上がり、下がる様子がみられないという現状が拍車をかけているのです。

ここでふと思ったのは、木材も製品ですから Just In Time、カンバンとして在庫を極限まで持たないという管理はロジスティクスでは正解です。しかしこんな状況になるとたちまちコンテナ不足から、製造、販売に影響がでてくる。同じことがニュースでよく耳にする半導体不足。BCP（Business Continuity Plan。事業継続計画）は自然災害などの影響を考慮し、非常時にも被害を最小限にすべく事前に計画しておくというものだが、今回はある意味人災。想定外の非常時といえるだろう。町の工務店が輸入木材の価格が高騰した場合を想定して、バッファー在庫を持てるか？という話です。

5 月のコンテナ取扱実績です。国際コンテナターミナル（出島）は 12,157TEU、海田コンテナターミナルは 8,086TEU の合計 20,243TEU となりました。前年の 2020 年と比較することにあまり意味がないので、過去最高の取扱であった 2019 年との比較してみると、海田コンテナターミナルは△28.5%と自動車関連の生産調整が影響しています。一方の出島の数量は 2020 年 10 月から 9 か月連続で平均４％程度の増加と堅調です。

最後にこれも新型コロナの影響ですが、**STU48（瀬戸内）**に触れておきたいと思います。AKB48 の姉妹アイドルグループとして登場した STU48。広島港を母港として“STU48 号”を劇場としてこの”STU48 号 “で移動しながら瀬戸内海各地を盛り上げ続けていました。しかしながら、新型コロナの影響でコンサート活動の休止を余儀なくされた昨年以降、岸壁に接岸しっぱなしでしたが、5 月末で船上劇場は閉館し STU48 号は広島港を離れて行きました。

（右奥に見えるのは出島コンテナターミナルのガントリークレーン）

広島港に接岸中の「ＳＴＵ４８号」